

新時代への連携を 視覚リハビリテーション研究大会in神戸

第27回視覚障害リハビリテーション研究発表大会（高橋政代大会長）は、9月14～16日、ポートアイランド（神戸市中央区）の複数の会場で開催された。視覚障害リハビリテーションに関係する様々な分野から、延べ約2,500人が参加。それぞれ相互に刺激を受け、連携を強めた3日間になった。主催は視覚障害リハビリテーション協会（吉野由美子会長）で、大会テーマは「発見そして自立—視覚リハの新時代へ」。（本誌）

世界を変える

平成29年11月、神戸港の人工島ポートアイランドに開設された神戸アイセンターは、ロービジョンケアの新たな中心地として注目されている。大会長の高橋さんが網膜再生医療研究開発プロジェクトのプロジェクトリーダーを務める理化学研究所生命機能科学研究センターも、このセンターにある。15日に神戸国際展示場で行なわれた開会式で、高橋さんは、今大会はその「お披露目の意味もある」と挨拶した。

神戸アイセンターは、再生医療の研究（理化学研究所）、眼科医療（神戸市立神戸アイセンター病院）、ロービジョンケア・福祉（ビジョンパーク）をつなぐことを目的とした複合的な施設だ。その内、公益社団法人ネクストビジョンが運営するビジョンパーク（Vision Park）は、展示スペースとホールを兼ねた個性的な空間になっている。

三宅琢さん（神戸アイセンター病院）が、バリアフリーなら

ぬ「バリア^あ有りー」と説明するように、眼科病院のロビーの一角でありながら、複数の段差があり、入り組んだ通路の中に、リーディングエリアやリラクゼーションエリアだけでなく、キッチンやクライミング施設、ドライビングシミュレータまである。



開会式でのトークセッション。
左から、三宅さん、濱田さん、高橋さん

これは「視覚障害者が明るくなれる場所」という高橋さんの発案を、複数の建築家・家具デザイナー・サウンドスタイリストらが協力して形にしたもの。コンセプトを務めた三宅さんは、人が集まりやすい場所を意識するだけでなく、臨床医としての経験から、病院内の安全さと、外の世界の様々な危険との対比が、視覚障害者の移動の障害につながっていると分析し、敢えてバリアの多い空間にしたという。

「笑いや感動を処方する」のがビジョンパークの理念だが、開会式のスペシャルゲストとして登場したのは、濱田祐太郎さん。濱田さんは視覚障害のあるお笑い芸人で、R-1ぐらんぷり2018で優勝。この日も、視覚障害や盲学校のあるあるネタで、会場は大爆笑だった。

ネタの後のトークで、濱田さんは「福祉の仕事をいただくこともあるけど、自分は（ひとりの）お笑い芸人でありたい。福祉の仕事というものが、なくなるのが理想」という。それを聞いた高橋さんも、そういった区別のなくなることが「大会の趣旨」と答え、三宅さんは「怖いもの知らずの3人で世界を変える」と意気込みを語った。